



2026 年 10 月 30 日

各 位

会社名 神 栄 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 中川 太郎
(コード番号 3 0 0 4 東証スタンダード)
問合せ先 経理・財務部長 松本 卓
(TEL. 0 7 8 - 3 9 2 - 6 9 0 1)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2026 年 5 月 14 日に公表しました 2027 年 3 月期（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

2027 年 3 月期通期連結業績予想の修正（2026 年 4 月 1 日 ～ 2027 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	45,000	1,850	1,800	1,250	319.08
今回修正予想 (B)	44,000	1,500	1,500	800	204.02
増減額 (B-A)	△1,000	△350	△300	△450	
増減率 (%)	△2.2	△18.9	△16.7	△36.0	
(ご参考) 前期実績 (2026 年 3 月期)	43,267	1,645	1,725	1,346	343.95

2. 修正の理由

売上高は、電子関連のコンデンサ分野で事業撤退時期延期に伴う終売対応による上振れを見込む一方、食品関連において冷凍食品分野の冷凍水産加工品や農産分野のナッツ類の販売数量が減少していることなどから、前回予想をわずかに下回る見込みであります。

利益面では、電子関連において計測・試験機器分野が順調に推移するとともにコンデンサ分野でも改善を見込み、物資関連においても海外防災関連分野や北米向け輸出などが貢献し堅調な推移を見込んでいます。一方、食品関連の冷凍食品分野において、さらなる円安の長期化による仕入コストの高止まりが続く中、利益率が想定を下回って

進捗しており、現下の為替水準が継続することを前提とすると、適宜価格調整を進めていることで利益率は改善していくことを見込むものの、物流コストなどの経費の増加も継続すると見込まれることなどから、営業利益および経常利益は前回予想を下回る見込みであります。

また、中間期において特別損失に電子関連のコンデンサ事業に係る事業撤退費用や係争事案における和解費用を引当計上し、これら特別損失への充当のため、本日公表しました「投資有価証券売却益（特別利益）の計上見込みに関するお知らせ」のとおり、第3四半期において投資有価証券売却益を特別利益に計上する見込みであるものの、当該売却益計上を含めた税金費用の増加などを勘案し、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を大きく下回る見込みであります。

なお配当予想につきましては、連結配当性向 30%程度とする目標を大幅に上回る水準となることを見込まれるものの、2027年5月に創立140周年を迎えることを加味し、1株当たり110円の配当予想を据え置くことといたします。

(注) 上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上